

第2回富山市総合計画審議会「第2回 人材・暮らし部会」 議事録

日時：2015年11月17日（火）14:00～16:00

場所：富山市役所 302 会議室

出席者：（順不同）

宮田伸朗	富山国際学園学事顧問（部会長）
江藤裕子	公募委員
齊藤裕美	富山市 PTA 連絡協議会参与
島田一彦	公益社団法人富山市医師会
館内敬子	富山市保健推進員連絡協議会会長
中西彰	富山市公民館連絡協議会 会長
野尻昭一	社会福祉法人富山市社会福祉協議会会長
見波重尋	婦中地域自治振興連絡協議会会長

企画管理部	今本部長、上谷次長、西田次長、酒井参事、室井主事
福祉保健部	西川次長
市民生活部	清水次長
教育委員会	奥村次長
市民病院	大井事務局次長
八尾総合行政センター	亀山次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- ・ 前回基本構想について様々なご意見を頂戴した。今回は各部会での検討結果、市民ワークショップ等の成果も踏まえ、事務局で加筆修正をいただいた素案をもとに議論をいただく。活発なご議論をお願いしたい。

委員

- ・ ワークショップの実施報告書の中で、P.3の「人材・暮らし 教育」に「デジタル教材が進んでいる」との意見が出されている。そうした印象を持っていないが、実態はどうか。
- ・ また、同じ報告書の P.10、南西エリアの「人材・暮らし 学校教育」では「学校給食の変化」という意見が出されている。具体的にはどのようなご意見だったのか、詳細を教えてください。

事務局

- ▶ デジタル教材については一部の地域で実験的に導入している。市民ワークショップはあくまでも参加されている方のご意見なので、富山市全域の状況を指すものではない。
- ▶ 婦中の学校給食は、合併を機に学校での調理から給食センターでの調理に入れ替わってきた。そういう変化をとらえてのご意見ではないかと思う。変化の途上におられる親御さんと、合併後にお子さんが進学された親御さんで、持たれている印象も違うのではないかと考えている。
- ▶ こうしたご意見は大事にしつつ、施策を検討する際には総合的な検証が必要だろう。

部会長

- ・ 市民ワークショップの中で整理されている「富山市の○」や「富山市の×」は個人の見解によるものか。

事務局

- ▶ その通りである。

委員

- ・ 健康寿命についてよく耳にする。今後は高度医療も重要だが、老人ホーム、ケアハウスに入居する高齢者もおられる中で、地域に密着した医療と高度医療との連携についても考えていく必要があるのではないか。地域コミュニティが重要であるとの記述が多いが、医療面ではどのような連携の取り方が考えられるのか。

委員

- ・ 生活の仕方が変わってきている中で、病院や介護施設に求める医療の内容も変わってきている。こうした変化への対応については、地域医療構想の中で検討しているところである。
- ・ 在宅医療を進めるためには、医療従事者がスムーズに働ける環境を整える必要がある。今後も医師会では、医療従事者が全市において動きやすいよう努力していく。
- ・ もう一つの課題はネットワーク化である。医療の全てを地域で完結することは難しい。すでに病院ではチーム医療の取り組みが進められているが、これからは「チームケア」というやり方に力を入れていきたいと考えている。まだ計画の段階なので、今後医師会の中でも検討を進めていく。

部会長

- ・ 市民病院の方ではいかがか。

事務局

- ▶ 在宅ケアについては正直まだ手が回っていない部分もある。地域の開業医の方と連携を行っていくことが重要ではないかと考えている。

部会長

- ・ 急性期を過ぎると地域でのケアに移行することになるが、連携は大きな課題である。最近では地域包括ケアの必要性も言われるようになってきた。医師会とも連携して、どのように体制づくりを進めていくかということだろう。

委員

- ・ 資料全般的に、「必要です」、「求められています」、「見込まれます」というように語尾の表現がばらばらになっているが、何か意味があるのか。

事務局

- ▶ 執筆者の性格のようなところもあるが、現状については感想を交えず状況を述べる表現とし、課題では、重要である、必要であるという結び方をしている。

委員

- ・ 「重要である」と「必要である」の意味合いに違いはあるのか。

事務局

- ▶ 特にない。同じ語尾が続くと単調な印象を与えかねず、バラエティを持たせて書いている。今後、文章についても精査していきたい。

委員

- ・ 富山市で人材を育てても、都心部に出て行ってしまふ恐れもある。都心部の方が給与の水準や介護のサービスの質も高いと耳にする。熱心に育てた人材が帰ってきてくれないとなると、将来的にも厳しい。

部会長

- ・ 前は中西先生に現職時代の振り返りも含めてご発言いただいたが、どのように富山市に人材を定着させていくことができるだろうか。

委員

- ・ 前回の部会でも少し触れたが、学習機会として、県外で様々なものと競ったり交流したりすることは重要だと考えている。都心部に残るか、富山市に戻ってくるかの選択には、本人の気持ち、家族の状況、景気動向など様々な要素が影響してくる。例えば教員採用では、富山市の採用しやすい時期と都心部の採用しやすい時期が交互に来るということもある。
- ・ 基本構想としては、富山市には魅力のある人生の送り方があるのだということを強調することが重要ではないか。

部会長

- ・ 人口減少に対しては、魅力あるまちづくりが究極の対策だとも言える。

委員

- ・ 北陸圏内の他の地域でも、雇用の場ができて働き手がおらず困っているという話を聞く。同じ北陸圏で争奪戦になっても意味がない。

部会長

- ・ 富山県西部では非常に求人倍率が高いという話もある。人材の引き抜きが行われているという話も聞く。

委員

- ・ 「富山市の現状⑤共生の社会づくり」に自治振興会についての記述があるが、その通りだと考えている。他地域では地区センターの立地が少なく、自治会も機能を果たさなくなっているという話を聞き、富山市の公民館の機能は素晴らしいものだ改めて感じた。自治振興会や地区センターはコミュニティだけでなく、防災・防犯、児童福祉など、様々な機能を果たしている。高齢者の集まる場としても非常に重要であり、もっと強調した表現にしていきたい。

委員

- ・ 担い手の減少が言われているが、次の世代に引き継いでいくとなるとどういったことが必要だろうか。現在取り組んでいる様々な活動も、このままでは次の世代につながっていかないのではないかと。

委員

- ・ 自治振興会や地区センターでは様々な団体が集まるので、自然と情報が入ってくる。担い手の確保も含めて、情報を共有することが重要ではないだろうか。

委員

- ・ 個々の人材だけでなく、組織的な問題も考える必要があるだろう。現在住んでいる地域では自治会なり自治振興会は自分と同じ世代が頑張っているが、もう少し下の世代では体育協会が青年団に代わって役割を果たしている。また児童クラブのお世話、民生委員、保健推進委員など様々な役割を果たしている女性もおられる。そうした様々な組織での活動がうまく循環していくとよいのではないか。

委員

- ・ 優秀な方ほど何役も引き受けている。

委員

- ・ 市長は「地区センターがこんなにも多いのは富山市だけだ」と豪語されていたが、高齢化の程度が大きい場合、次の担い手がないことが大きな問題となっている。
- ・ 次年度の町内会長へ立候補がなく、じゃんけんで会長を決めることもある。何年も同じ方が自治振興会長を担うこともある。特に団地では次世代への引継ぎが難しい。

委員

- ・ 一方で、新しく入ってきた人が多い地域では、誰がどんな人がいるか分からないのにお願ひできないという問題がある。以前、集団登校の際に町内でのとりまとめができず、隣の町内にわざわざお願ひしたこともあった。会費の問題もある。
- ・ お祭りには様々な人が参加している。傍から見てみると、楽しめることがよいのだろうと思う。苦しいことばかりでは続かないので、楽しみつつ学ぶということが必要だろう。

委員

- ・ 自分の住む町内でも年に3回お祭りがある。役員職に就いている人は全員参加することになっており、毎年同じ人が同じ役を担っている。

部会長

- ・ 地域で何ができるのか、また市の施策としてどのような応援ができるのか、話題にしていればと思う。

委員

- ・ 80年代生まれでは集団離れが進んでいると言う研究者もいる。ボーイスカウトへの参加者も減っているようで、私たちとは違う人種の人にとらえた方がよいかもしれない。
- ・ 「わが国を取り巻く現状⑥」で、文化・芸術が「価値観や行動様式の多様化」に変わったことは極めて今日的な修正内容だと感じた。多様化を前提に地域づくりに取り組み、一人の人が仕事をたくさん背負わず、皆が楽しく参加できるような地域づくりのシステムを考えていく必要がある。
- ・ 子どもたちに、地域の一端を担っているのだという意識付けをしていくことも必要ではないか。意識付けが郷土に残る子供たちを育むことにもつながるのではないか。

部会長

- ・ 以前の総合計画の検討の際にも、「普遍的な価値が何かあるのではないか」という意見が出されてい

たことを思い出した。結婚する人の減少も象徴的だと思うが、価値観の多様化が進んでいる。価値観の多様化を前提としながら、全員参加型あるいは個性や力を合わせて取り組んでいけるような地域づくりが必要だろう。

委員

- ・ 行政が知恵とお金を出し、どこかの地域でモデル的に取り組むことはできないのか。

事務局

- 住民の主体的な動きを行政でコントロールすることはできない。他地域でのよい取り組みを情報提供することはできる。また、住民や自治会が主体的に取り組むことについての支援は可能だと考えている。

部会長

- ・ よく「若者・よそ者・馬鹿者」がまちづくりを変えていくという話を聞くが、これまでとは異なるやり方を考えていかなければならない。

委員

- ・ 地域内で人を増やすことは難しく、いかに外から人を呼んでくるかが重要になる。小さい村では人口が少し増えただけでも大きなインパクトがある。若い人が魅力を感じ、戻ってこられるような環境づくりができないかと考えている。
- ・ 大都市圏からの転入について、ノーベル賞を受賞した梶田さんの話を聞くと、研究関係など何か目的がないと、漠然と人を呼ぶことは難しいのではないだろうか。

部会長

- ・ 新聞で、本社機能の一部を移転すると優遇措置があるという記事を読んだ。

事務局

- 市長もよく発言されているが、人は総合力の高い街に集まる。雇用の場だけがあればよいということではなく、教育、スポーツ、文化、医療など、様々なものが需要である。総合計画の本質は、総合力の高い、質の高い都市をどう作っていくかという点にある。

委員

- ・ 雇用以外に富山市が劣るものはないのではないかと。
- ・ 富山市は大きく、それぞれの地域で抱えている問題が全く異なる。それぞれの地域で人を呼ぶ仕掛けを考えていく必要があるだろう。

委員

- ・ 娘の就職活動で知ったが、女性が正規で就職できるところがあまりない。選択肢としては教員や公務員くらいで、これでは女性が戻ってこられないのではないかと感じた。男性だけが戻ってくると、結婚する割合もますます低くなってしまふ。

部会長

- ・ 最近は男女区別しない求人も多く、何とも難しい部分である。

委員

- ・ 工学系の職の求人は多いかもしれないが、応募は男性の方が多いだろう。

部会長

- ・ 比較的大規模な都市に限られるが、新聞社や放送局はあるかもしれない。

事務局

- 過去の統計を見ると、富山市の女性の就業率は極めて高い。特に富山市で女性の働く場所が極端に少ないということはイメージしにくい。

部会長

- ・ 会社の支店、行政機関も多く立地しており、富山ガラス美術館、親水公園、世界一美しいスターバックスコーヒー、便利な公共交通など、都市の魅力は高まっていると感じている。これ以上何をすればよいのかなという思いもある。

委員

- ・ うがった見方かもしれないが、特に女性で、国立大学に進学するような優秀な人が再び富山市に帰ってくるのは難しいように思う。

委員

- ・ 県外から学生が戻ってこないのは富山だけではないだろう。

部会長

- ・ 統計的な裏付けがあるのか分からないが、インターンが増えているという話もある。

委員

- ・ 「主要課題⑧交流人口の拡大と受入体制の整備」について、新幹線開業のみが取り上げられているが、市内には北陸自動車道 IC もあり、書き出しの表現としていかがなものか。
- ・ 富山市はまだ十分に観光地の開発が行われているわけではないが、金沢市とは違う産業観光もある。そうした点についても強調しなければならないのではないか。

部会長

- ・ 「合併 10 年 ③財政」のグラフを見ると、歳入と歳出どちらも計画よりも実績が上回りつつある。この点についてはどのように考えるとよいのか。

事務局

- 合併後 10 年は合併による優遇措置があったが、今後は法律の規定により、漸次交付金は削減されていくことになっている。

部会長

- ・ 駅の開発が終われば、今後 10 年間で大型の公共開発も少なくなっていくだろう。あえて歳入・歳出の状況図を載せなくてもよいのではないか。

委員

- ・ とりまとめを行った後、パブリックコメントなどは予定していないのか。

事務局

- 各部会での議論を整理した後、部会長によって構成される調整部会を開き、原案を策定する。その後、議会への説明やパブリックコメントを実施した上で基本構想を確定させる予定である。
- 基本計画では、もう少し具体の部分について検討を行うつもりである。

委員

- ・ 基本計画を策定する際にもワークショップは開催するのか。

事務局

- 庁内で今後 10 年間の事業を整理した上で、年度末に原案をとりまとめる予定である。その際に

はまたご意見をいただきたい。パブリックコメントや住民説明会など、ご報告は順次行っていく。

- 具体的なスケジュールとしては、以下の想定である。
 - ◇ 1月下旬：調整部会の開催
 - ◇ 年度末：パブリックコメントを実施
 - ◇ 4～5月：調整部会の開催
 - ◇ 5月：総会を開催し、基本構想を確定する
 - ◇ 6～7月：総合計画の素案をとりまとめ
 - ◇ 8月頃：部会でご議論をいただく
- 基本計画の策定に当たっては、翌年予算に絡む実施計画について、具体の事業もお示ししながら検討ができればと考えている。

委員

- ・ 富山市には、よいところも悪いところもある。中山間地域についても書かれているが、旧町と旧村ではまた異なる問題がある。
- ・ 市が描く強い都市像が隅々の人に理解されなければ、どうしても街中ばかりに税金を使い、中山間地域は取り残されてしまうのではないかという悪い印象を与えてしまう。住民はまだ本質を理解していない。市民とともに頑張っていきましょうという思いを広めていけるとよい。

部会長

- ・ 計画についてはゾーニングを行うということだったと思うが、その部分についてはどうか。

事務局

- 都市整備部で地域ごとに計画策定に着手しているところである。総合計画と同時並行でまちひとしごと総合戦略の策定も進めているが、それらとの整合を取る必要もある。市全域で人口が減少する中で、中山間地域に人を集める方法を考えるだけでなく、急速な人口減少をいかに食い止めるかということが重要である。
- 全国的な目で見ると、富山市で増えた人口の分、他地域の人口が減ることになる。地域間で人口を取り合うのではなく、富山市を住みやすい街にすることで、元気な高齢者に生きがいを持って活躍してもらい、若い人に子どもを2～3人育ててもらい。そうした取り組みの結果、日本の少子化対策に貢献できなければ、根本的な解決にはならない。
- 総合計画では今後10年を見据え、どのようによい富山市をつくっていくかということが重要になる。住民への細かな説明は我々の責任だとも思っており、皆さんからもこうした雰囲気の中でご議論をいただき、皆でよい富山市を作っていければと思う。

委員

- ・ こうした話は、他の人にも話してよいか。

事務局

- ぜひお話しいただきたい。
- やはり、一体感の醸成が重要だと思っている。上流で水田を整備するからこそ川下で洪水が起きにくい。市街化区域において都市計画税や固定資産税を集められるからこそ、市域全体で様々な事業を行うことができる。市街地と中山間地域の双方が支え合っているのだという雰囲気を

醸成していくことが重要だろう。

委員

- ・ 一生懸命やっていることが伝わっているかという点、なかなかそうではない。

事務局

- 市民との距離感という点では、なかなか難しいところでもある。

委員

- ・ 旧富山市には立派な図書館ができたが、旧八尾町では、3つあった図書館のうち1つが閉館された。合併したからこそ減らされたのだと思ってしまうような、象徴的な動きもある。そうした点については十分配慮いただきたい。

事務局

- 旧八尾町の人口は2万数百人だが、旧富山市の範囲では小学校区単位でそれくらいの人口規模を有する地域もある。そこに図書館が3つもあるかという点とそうではない。

委員

- ・ 富山市で最も歴史のある図書館だった。なかなか難しいことは分かるが、市民が悪い印象を持つことにもつながる。

事務局

- 将来の市民に負担を残していくのかという観点もある。人口が減少していく中で今のままの施設を維持していくとなると、一人あたりの負担は次第に増えていくことになる。
- 地域の歴史や背景を無視して力技で変えていくようなことは考えていない。中心部だ、中山間地域だというのはなく、市域全体で取り組んでいけるとよい。

部会長

- ・ 富山市とは逆に、合併して旧町村部ばかりがよくなっているという話を聞く地域もある。皆が納得できるような議論ができればと思う。調整部会でも議論させていただきたい。

事務局

- 今回加筆いただいたものを部会長にご覧いただき、調整部会に上げていただくということで、ご理解いただきたい。

以上